

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩、ウォーキング、買い物、地域の行事参加の中で戸外に出て身を動かすことができ、外部の方との触れあい、日常生活の中で入居者同士の会話等でお互いさまの気持ちが育まれている場面があります。	朝のミーティングで利用者一人ひとりが今、何を求めているかを話し合い、事業所の理念「健康で長生きしたいと思って頂く」に添ったサービスを提供しています。特に毎日の散歩で体力維持を図ると共に、近隣との触れ合いを大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリーンデー・桜祭り・防災訓練の参加や毎日のウォーキングや散歩で近隣、公園内で挨拶や声掛けをしています。(馴染みの方に多く声を掛けていただいています)	事業所として外での活動を大切にしているので、町内会の行事には職員と利用者共に積極的に参加しています。近隣の方をお招きして、お茶会が開かれたり、中学生が来て吹奏楽の演奏会なども行われ、地域との交流も深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談がある時に、支援方法などを伝えたり悩みを聞いたりしています。運営推進会議で地域の方と話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス等の報告に特に助言はないですが、外食は良いですね・・・と言われるので続行するようにしています。	運営推進会議は今までのメンバーに、今年から他のグループホームの職員も加わり、意見交換をしています。事業所の活動の良い所や改善するところ(日々のちょっとした衛生面の工夫)など、話し合われ、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	納得できるまで丁寧に説明していただける方とは協力関係を築けています。	月一回訪れる市委託の相談員を通じて情報提供相談を行っています。今年は難しい事項がないので、市の職員とは年一回の話し合いを持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を90%が把握し実行しています。玄関は施錠しませんが、その日の入居者さんの状態によって施錠が必要な時もあります。(落ち着きがない・妄想が激しい)	外部研修、「高齢者権利擁護・身体拘束廃止」に5名の職員が参加しています。朝のミーティングでも身体拘束をしないケアについて話し合い理解を深め日々の生活の中で職員が注意し合い、支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に参加しています。また、身体拘束ゼロへの手引きや松戸市虐待防止マニュアルを利用して勉強しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は使用しているも、職員すべてが制度のことを熟知はしていません。権利擁護について講習に参加し、資料を参考にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解・納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを活かして改善したり、利用者から相談員さんへ、そして施設へ意見が届くこともあります。訪問されないご家族へは時々電話をして意見をいただいております。	利用者の意見要望は、職員が日頃の係わりの中で把握しています。相談員に相談したことも職員に伝えて貰っています。利用者の希望を入れてお墓参りや行きつけの店に行ったりしています。家族は訪問時や月一回の手紙や電話で連絡しています。	事業所の中では利用者や家族の意見が出しやすい取り組みが行われています。市町村の窓口や事業所以外の外部の人にも意見苦情を表せる機会や場があることも説明できるよう期待しています
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週4日のミーティングで職員の意見や提案を聞いて、運営に反映させています。今年は職員提案で[中学生吹奏楽部の演奏]を催し入居者さんからとても好評でした。	朝のミーティングで気づいた事は出し合い利用者に対する対応の仕方なども皆で話し合い、行っています。子育て中の職員も子どもの事も相談したり、病気になった時も配慮して貰え、働きやすい職場環境が整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少人数にて、ほとんど把握できています。ご本人の長所や得意としていることを十分に発揮できるように支援しています。研修等の参加促進、労働時間、勤務日も90%希望が通っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加、内部研修とも随時行っています。介護福祉士等の資格を平均、年1人取得しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を受けたり運営推進会議に他施設管理者に出席していただき意見交換したり、他施設のお祭りに参加したりと交流する機会が以前より増えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最重要と考え行っています。周辺症状が減っていくのを実感できます。個別に話を十分聴くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞いて改善に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をご家族、ご本人から十分得て、安全で安楽な生活が得られることを最優先に行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の関係を築けるように努めています。すべてのことを否定しないように努めたことで、支え合う関係を実感できました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族とはご本人の日常生活をまめに伝えられ介護に協調してもらえます。家族の絆を一番感じられる場面ですので病院の付き添いは極力ご家族にお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族以外に友人・知人の訪問もあるので、随時心良く受け入れています。継続支援のため一緒にお墓参りに行かれる方もいます。	利用者と職員が、アルバムを見ながら昔の話をする中で、「自分の家から行った庭園に行きたい」との話が出され、予定を立て皆で出かけています。知人からの贈り物に対してお礼の電話をかける援助もしています。馴染みの店に出掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が保たれるよう、常に気を配っています。ほとんどの方が日中、居間で過ごされるため席が決めてあり、気が合う合わないを常に気にし席替えには十分気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味・嗜好などを把握のうえ、日常生活の中で実践しています。(食事・外食・喫煙・飲酒)日常品の買い物と一緒にすることも多いです。本人の希望で近所に髪染めにも行っています。	日常の活動の中で職員は利用者の話をよく聞いたり行動を見守る中で、利用者一人ひとりの希望や意向の把握をしています。把握したものをミーティングなどで話し合い、職員が共有して利用者の希望に添って趣味や買い物など実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めています。 日々の一人ひとりの観察がとても大事だと考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の訪問時に話し合い、また主治医の助言を得、ミーティングで検討しそれぞれの意見を参考にして作成し、ご家族に説明し同意を得ています。	利用者家族の意見は訪問時や電話連絡で把握し、利用者の意向も入れながら、職員の意見、主治医の助言の下に、介護計画が作成されています。家族には、連絡して了解を得ています。モニタリングは、半年に一回行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、すべての職員が目を通しており、気付いた点をミーティングで話し合い、介護計画にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に合わせて、対応しています。(排痰の困難な方にはタッピング、下肢の浮腫にはマッサージ、四肢の委縮には伸展・屈曲運動を施行)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人でホームを出てしまった時など知らせていただいた時もありました。散歩は緑豊かな広場に毎日行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を続行希望されている方もいます。主治医との信頼関係が得られており、安心して受診されています。	月一回、事業所の主治医の訪問診療を行っています。かかりつけ医を希望される場合は、家族と一緒に受診する事を基本にしています。受診内容については、家族からの報告を受け主治医や職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察が十分できており、即報告、即対応しており利用者はさんは適切な支援を受けられていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二つの協力病院とも、認知症の方を十分理解してもらえており、早期治療、退院に向けて協力的です。各人の特徴も伝えてあり、治療方針にも活かしてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族、主治医に病状をお伝えし、ご家族には利用者さんご本人の意志がどうであったのか等確認し、主治医に詳細に伝え、当施設でできることを伝え支援しています。事前指示書を殆どのご家族に書いていただいております。普段ご本人と職員とも話し合っています。	重度化や終末期について、入所の時に事業所の方針を説明し、事前指示書に同意を求めています。終末期には、本人・家族の意思を確認をし、主治医に詳細を伝え、事業所で出来る事を知らせ支援しています。本人や職員とも話し合いが行われて、看取りが実践されたこともあります。	重度化や終末期については、事業所として支援が行われています。利用者、家族等事業所や関係者全体で早期からの話し合い、利用者にとってどうあったら良いのか、事業所としての取り組みも説明し、一人ひとりの意思を確認した、書類の整備を期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術、誤嚥対処法、止血法、生命徴候のとり方等定期的に訓練しており、職員の70%位は応急処置ができます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難誘導は大部分の職員ができています。地震時はテーブルの下に避難することになっています。	災害時の対応は、非常時を想定して利用者や安全に避難誘導出来る方法について話し合い、職員間で共有しています。地域の防災訓練に、地域の住民と共に、利用者も職員も参加しています。	事業所として、地域の方に災害時の協力を依頼しています。これからは地域の方と災害時の避難など、職員との協力体制が構築されることを期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉は使わないようにしています。人生の先輩として、敬う気持ちは常にもっています。 友達言葉は禁止しています。	利用者への対応は、ミーティングで職員が話し合い確認しています。呼び名も姓で呼ぶか？名で呼ぶか？利用者に確認して行っています。言葉かけや支援の時は、見守ることを大切に大きな声は出さないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に気をつけて声掛けして、ご本人の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように支援しています。入居前の不規則な生活の方も規則正しい生活を取り戻せるようにしています。その日の過ごし方について、ご本人からの希望があれば希望に添うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は、その人らしくきれいにされており、さりげなく合う服を進めています。入居者さんと一緒に買い物に行き、服や小物など好みの物を購入することもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの各々知的、身体的状態により職員と一緒に食事の準備や味付けをしてもうこともあります。茶碗拭き・食材の皮むきは毎日楽しくやっております。	利用者の好みを取り入れた職員の手作り料理を提供しています。利用者は野菜の下準備や皮むき等出来る事を職員と一緒にしています。食べる事に集中出来るように職員の声かけにも配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの職員が、食材や量のカロリーをおおよそ把握しています。水分も十分摂っています。お茶・スープをあまり飲まれない方には、好きなジュースをお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や能力に応じて、声掛け・誘導・見守り・一部介助・全介助にて毎食後の歯磨きをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間毎にトイレ誘導し、排尿パターンを把握します。(チェック表に記入) 声掛けまたは誘導することにより、リハビリパンツの使用回数が減る方もいます。また、リハビリパンツが外れた方もいます。	個々の排泄パターンをチェック表で把握して、トイレでの排泄が出来るように支援しています。利用者ひとりひとりの様子を見ながらトイレへ誘導するなどして、排泄の自立が出来た利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米2食と野菜を多く取り入れ水分も十分摂っています。ウォーキングをほとんど毎日行っていますが便秘の方が多くいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回で、曜日や時間は決まっていますが、入浴の順番を気にされる方の要望には応えています。	入浴は週3回と曜日は決まっていますが、時間については希望・タイミングや体調により、一人ひとりに添って入浴が出来るよう対応しています。夏は日を決めず希望に添ってシャワーで対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時、希望時、自ら寝に行かれる方もいますが、ほとんどの方は昼寝はされていません。 ラジオを聴きながら眠られる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の主作用はほとんど把握できています。しかし副作用については十分な把握はできていませんのでミーティングで時々勉強しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食の好きな方・外出や買い物の好きな方は他の方よりも多く出かけています。役割分担を決めており半数くらいは出来ています。百人一首の読みが好きな方は毎日読んでもらい、ハツラツとされています。飲酒や喫煙されている方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は毎日のウォーキングや散歩をしています。ご家族が外食墓参りに連れて行って下さったり、ご家族の自宅に外泊される方もいます。	外出は、毎日全員が戸外に散歩に出かけています。車椅子のかたも天候や体調を見ながら外出しています。安全に注意しているため、利用者に合わせたコースが決められています。希望によっては外食やお墓参りなど家族や地域の方の支援も得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでは、ほとんどのの方が所持し買い物していましたが、今では数名しか所持していません。(自分で管理できて買い物も一緒にしています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があったり、贈り物のお礼を言う時に電話していますが、電話を聞き取れない方が多く支援できる方は少ないです。手紙は以前のように文字が書けず手紙を書ける方が少なくなりましたが、しっかりと書ける方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とスタッフで制作した物や花を飾り、明るい雰囲気にしており、季節の植物を利用し、緑のカーテン(ゴーヤ)やカレンダーを作るなど、季節感も取り入れています。	玄関には、利用者が生けた季節の花が飾ってあります。また、床は、手拭きできれいに掃除しています。居間・食堂からは、庭の花や植木がよく見え季節が感じられます。朝の室内には、モーツァルトの曲が流れています。また、テレビはニュースや好みの番組が観られる様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに移動してお話されたり、雑誌などを一緒に見て楽しんでいます。気の合う方の席に行き昔話などをされ楽しそうに過ごされています。居室を訪問したり、されたりしてらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物がある方は、ご家族の方が飾って下さり、使い慣れた物を入れていらっしゃる方もおります。ご本人の状態により居室にソファーを置けない場合がありますがほとんどのの方がソファーでくつろげるようにしています。	利用者の好みや使い慣れた物などで過ごしやすい居室になってます。ベッドの位置や向きなど本人の意向に添った配置になるように工夫しています。職員はアルバムを見ながら語り合うなどして家族関係が失われないよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	矢印などで誘導線を表示したり、手摺やエレベーターの使用で自立に役立っているようです。		